

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援リフト		公表日		令和7年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動や配慮事項に応じて部屋を分けたり、走り回するには十分な広さがあります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・指定基準を満たし、加配の職員も配置を意識している。	言葉に課題を抱えている児童に対してより専門的な支援を行うためにもSTの配置も検討している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・段差など少なく、怪我防止に考慮したつくりになっています。	今後もこどもの状況に応じて環境設定を工夫していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		「一人になりたい」などの声に対して環境調整できるようになっています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		その日の計画、振り返りを行うためミーティングを3回(朝・昼・夕)実施しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			ミーティング以外では個別に管理者が対応しているが、決まった機会は設けられていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		施設内・外の研修への参加、日々のミーティングを密に行い、支援に対する考え方や手法の共有・統一を図り、より良い支援に繋げることを大切にしています。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		職員で児童のケース会議を行い、ニーズを考え、児童と両親の希望等も考え、作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		問題点や課題、支援の方向性についてはスタッフ共通認識で療育にあたっている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			見学や契約時に標準化されたアセスメントシートにて聞き取りを行い、専門士による評価も加え、職員間で情報共有していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		様々な職種の見地から検討しが立案している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの特性や年齢に合わせ、様々なプログラムを行なっています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		発達課題やその日の状態に応じ、個別活動も取り入れるなど、臨機応変に対応しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の計画、配慮事項等の共有を図るためにミーティングを実施しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後に必ず日々の支援活動の振り返りを全員で行い、次回以降の活動への繋げています。	参加できなかった職員に対して共有が不十分な面があるため、重要事項に関しては翌日に共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・支援終了後に全体総括の記録と個々の記録を取り、次回以降に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・児童発達管理責任者が定期的にモニタリングを行ない、支援内容の見直し等を検討しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携した支援体制は整えています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		児童発達支援管理責任者が移行支援シートを基に情報共有を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・管理者が積極的に参加しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域の中で他のこどもと活動する機会に関しては、保護者の方の意向を聞きながらすすめていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時や連絡帳アプリ、電話、面談にて共有を図り、努めています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		個別の家族には対応しているが、全体としての機会は設けられていません。	来年度は希望者に対して、ペアレントトレーニングを実施する予定です。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			改訂などがあった際はは文章を配布していく予定です。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・児童の希望や両親の希望を尊重し、何に困っているか、必要か考えて計画を作成している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		今の課題や発達状況に合わせて支援目標を設定し、丁寧に説明して同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・相談があった際には電話や連絡着アプリ、面談など個々に合わせた形で対応しています。	・より保護者様が相談しやすい環境を整えていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		来年度は実施予定です。 どのような形が喜ばれるか検討中です。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談・苦情の窓口については、契約時に説明しています。児童からの要望については、ミーティングで取り上げ、その後対応を検討しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		連絡帳アプリを用いて個別に発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭だけでなく、絵カードや文章、写真等も活用している。保護者に対しても、電話やアプリ、紙面などやり取りのしやすい媒体を活用し、伝達を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・事業所の行事を企画して地域の方々に興味を持ってもらえる運営を心掛けたいと思います。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各マニュアル等、整備しています。	マニュアルの策定はされていますが、周知という点においては不十分だったと感じています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		モニタリング等で保護者から既往歴やアレルギー等の聞き取りを行い、職員間でも共有しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある児童には、おやつ提供時に職員で確認して提供している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際には、皆で話し合いを行い、書類に内容と対策を一緒に残している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修等で職員間で情報共有・話し合いを行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		職員には研修で、保護者には契約時に了解を得ている。		